

片瀬

まちづくりテーマ ふじさわ未来課題

テーマ

歴史の薫りと潮の香りがただようふれあいのまち 片瀬・江の島

概況

古くは律令時代から集落の存在が記されている“かたせ”ですが、昭和15年市制施行後、昭和22年4月1日に鎌倉郡片瀬町が編入され、現在の片瀬地区が形成されました。

人口は、平成22年4月1日現在で20,714人となっており、全市の5.12%を占めています。市内13地区では3番目に少ない人口となっています。65歳以上の人口の占める割合は24.76%で市内で1番の高齢化率となっています。また0~14歳の年少人口は13地区で3番目に少ない割合となっています。

片瀬地区の地勢としては、藤沢市の南東部の海岸線に位置し、東西1.42km、南北4.29km、面積は3.02km²で全市の4.3%を占めています。湘南の海と山に恵まれ、東は鎌倉市に隣接し、南海上の江の島、海岸に面した片瀬海岸、境川東岸の片瀬、山林を宅地造成した片瀬山・片瀬目白山など様々な特徴を持った地形となっています。



片瀬諏訪神社下社



江の島地主神の夏祭り 八坂神社例大祭



全国有数の観光地である江の島と片瀬海岸

重点

ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

課題領域	めざす方向性	(1) 地域自らの「課題づくり」を育むまち	(2) 明日の課題を担う「課題づくり」を育むまち	(3) 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資	(7) 「まちづくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「暮らし」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生
生活	(A) 市民生活の安定(安心・落ちつき・安らぎ)	身近な地域での暮らしやすさが実現していること	市民自ら、人にやさしいまちを築きあげること	17 健康、医療、福祉、教育などの生活環境が暮らしやすくなっていること	24 様々な声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	25 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	56 身近に親しみやすい自然環境が保たれていること	66 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、歴史の趣が感じられること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	2 市民が自慢できるまちであること	9 子どもを安心して育てられる環境があること	18 災害に耐え、市民が不安なく暮らせること	29 子育て世代を支える環境が充実していること	36 誰もが快適に暮らせること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	57 すべての世代が活躍の場があること	67 移動や利用にあたり、誰でも利用できる環境があること	74 いつも自然の豊かさを感じられていること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	3 市民自らが課題を克服する活動に積極的であること	19 市民が安心して暮らせること	27 お互いの個性が尊重されていること	37 誰もが安心して暮らせること	48 豊かな暮らしが実現していること	58 地域の特長を活かされたまちであること	68 日常生活に安心や豊かさを支えてくれる場所があること	75 豊かな地域資源を大切に活用できること
	(D) 創造・推進活動(発案・チャレンジ)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	20 安全・安心を高める活動が盛んであること	28 地域のために一人ひとりの活動が大切に行われていること	38 市民が安心して暮らせること	49 地域に誇りを持って暮らすこと	59 市民の活躍が活発に行われていること	69 市民が安心して暮らせること	76 豊かな地域資源を大切に活用できること
未来	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	21 市民が安心して暮らせること	29 いろいろな世代、いろいろな人たちが活躍していること	39 市民が安心して暮らせること	50 市民の活躍が活発に行われていること	60 市民が安心して暮らせること	70 市民が安心して暮らせること	77 市民の活躍が活発に行われていること
	(F) 市民生活の基盤(学び・育む・人材育成・仕組みづくり)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	10 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	22 様々な世代が、快適に暮らすこと	30 お互いに支え合い、協力して地域のために活動していること	40 市民が安心して暮らせること	51 市民の活躍が活発に行われていること	61 市民が安心して暮らせること	71 市民が安心して暮らせること	78 市民の活躍が活発に行われていること

① 自治体単独での課題解決
② 強みや魅力の維持・向上
③ より効果的に課題の維持を
④ 数値と指標ある未来戦略

鵜沼

まちづくりテーマ ふじさわ未来課題

テーマ

緑と海と人が輝くまち「湘南ふじさわ鵜沼」

概況

鵜沼地区の人口は、54,569人（2010年4月1日現在）で全市の13.4%を占めています。市内13地区で1番人口の多い地区になります。65歳以上の人口の占める割合（高齢化率）は20.72%で13地区で5番目に高い地区となっています。

鵜沼地区の地勢としては、藤沢市の南部中央に位置し、面積は5.55km²、東の境は境川（片瀬地区）、西の境は引地川（辻堂地区）に挟まれ、南は相模湾に面する南北に長い地形となっています。

昔の鵜沼は湿地が多く、そこに鵜（白鳥の古名）が飛来していたことが「鵜沼」という地名の由来とされています。鵜沼地区は、平安時代から鎌倉時代にかけて鵜沼皇大神宮を中心とした北西部に村落が集中し、そのほかの広い土地は長い間荒地のままでした。明治のなかばころから南部の海岸が海水浴場として知られるようになり、1902年（明治35年）に江ノ島電鉄が開通すると行楽客は次第に増え、旅館などの設備なども整ってきました。特に鵜沼館や東家、対江館といった旅館には多くの文化人たちが訪れ滞在し、その執筆活動などにより新しい文化が鵜沼から発信されました。また、海岸部は別荘地としての開発が進み、日本初の計画的別荘地分譲（25万坪）が行われ、1929年（昭和4年）の小田急電鉄の開通は瀟洒な住宅の開発（100万坪）に繋がり、鵜沼地区の街並みが形成されてまいりました。

現在の鵜沼は、北西部も宅地化が進んだこともあり、歴史と文化に育まれた閑静な住宅街地が大半を占める中、藤沢駅南口周辺の市内有数の商業地帯と、全国的にも有名な海水浴場・ビーチ巴厘会場などを有し、豊かな自然にも恵まれた湘南藤沢を代表する地区となっています。



鵜沼地区の商店街



湘南海岸（鵜沼海岸）

重点 ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

課題領域	めざす方向性	(1) 地域自覚型の「暮らしづくり」を育むまち	(2) 明日の暮らしを担う「未来の子どもたち」を育む環境	(3) 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発掘	(6) 地球温暖化防止など未来の地球環境への対策	(7) 「暮らしづくり」を支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「暮らしづくり」を支える「湘南カルチャー」の創出
生活	(A) 市民生活の安定（安全・まち歩き・安らぎ）	身近な地域で暮らしたくやが実現していること	市民が、人にやさしい手助けをしてくれること	18 災害に際して、市民が不安なく暮らせるまちであること	24 地域や声かけによる市民同士のコミュニケーションがとれていること	30 まちと自然環境の調和がとれていること	44 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	56 身近に「みよや」や「あやぎ」など、まちでも利用できる店舗や施設があること	66 市民の財産である自然を守り、育てていくこと	72 活気があり、開放的で通いやすいまちであること
	(B) 市民生活の豊かさ（役に立つ・便利・快適・楽しい）	2 市民が自慢できるまちであること	8 子どもを安心して育てられる環境があること	19 治安の良い環境であること	25 子育て世代を支える環境が充実していること	36 誰もが快適に暮らそう、居心地のいいまちであること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	57 すべての世代が、のびのびと生活できること	67 移動や利用にあたり、誰でも利用できる環境があること	74 いつも自然の豊かさを感じられること
活動	(C) 持続的活動（伝える・維持する）	4 豊かなまちで育ちながら、多様な価値観を尊重し、地域で暮らしていること	10 子どもが、住んでいる地域に誇りを持ち、地域で暮らしていること	20 安全・安心を高めるために、地域で暮らしていること	26 地域のための一人ひとりの活動が大切にされていること	39 身近にある資源が適切に保全されていること	50 市民の環境への意識を高める工夫がとれていること	60 まちに必要なサービスや施設が充実していること	69 市民が利用しやすい施設が充実していること	77 暮らしの質が向上していること
	(D) 創造・推進活動（発案・チャレンジ）	6 地域で活動し、暮らしやすいまちづくり活動が行われていること	12 地域活動で、市民が主体的に活動していること	21 市民が協力し、安心して住みやすいまちであること	29 いちいち世代、いろいろな人たちが、活動していること	41 調和のとれた暮らしづくりが実現されていること	51 先進的な取り組みがとれていること	62 産業の活力を高め、地域が元気になること	70 様々な主体によって、身近な公共の施設が維持管理されていること	76 市民が活躍できるまちであること
基盤	(E) 交流基盤（交流・つながり・連携）	10 誰でも気軽に市内の様々な場所へ行き、暮らすことができること	14 学校・家庭・地域とのつながりや多様な活動が活発であること	22 様々な世代が、快適に暮らしていること	31 社会的弱者の方が、快適に暮らしていること	43 市民同士が協力し、助け合いの精神が醸成されていること	54 県民同士が協力し、助け合いの精神が醸成されていること	64 市民同士が協力し、助け合いの精神が醸成されていること	71 多様な価値観を尊重し、市民が暮らしやすいまちであること	78 市民が活躍できるまちであること
	(F) 市民生活の基盤（学ぶ・育む・人材育成・仕組みづくり）	7 お互いが「まち」を育て、暮らしやすいまちであること	16 子どもたちが身近な生活の中で自然を体験していること	23 環境が充実し、子どもが安心して暮らしていること	33 地域の中で学びあう機会がとれていること	44 河川や海岸が市民に開かれていること	54 地球環境に優しいまちづくりがとれていること	64 市民同士が協力し、助け合いの精神が醸成されていること	72 いろいろな市民の力が発揮されていること	82 藤沢ならではの魅力を、市民が実感していること

① 協働型の課題解決で課題向上へ
② 強みや魅力の維持・向上を
③ より効率的に目標の維持を
④ 動員と根拠ある未来戦略を

辻堂

まちづくりテーマ

ふじさわ未来課題

テーマ

歴史と緑と潮風のかおる、健やかなまち“湘南辻堂”

概況

辻堂地区は、藤沢市の南西部に位置し、南は湘南海岸を臨み、東は引地川を境に鶴沼地区と、北はJR東海道本線を境に明治地区と、西は茅ヶ崎市に接する、気候温暖で風光明媚な海沿いの地区です。

地区の面積は4.46km²、人口は37,990人(2010年4月1日現在)で全市の9.3%を占めています。また、65歳以上の割合(高齢化率)は、20.56%と高い水準となっています。

かつては半農半漁の村でしたが、明治時代に海軍の演習場が設置されたから別荘や住宅が造られ始めました。大正5年(1916年)には、駅舎用地と建設資金を地元有志が提供するという、当時としては先駆的な形で辻堂駅が開設され、それをきっかけに住宅地として開発されるようになりました。その後、昭和30年代に東京のベッドタウンとして一気に宅地化が進みました。

現在でも、かつての辻堂の中心地であった「四ツ角」(「四ツ辻」という説もある。)の周辺は昔ながらのまちなみが残っています。現在の中心は辻堂駅であると言えますが、北口で湘南C-X都市再生事業により大規模商業施設が誘致されたのに対し、南口では大型店との共存を目指した商店街づくりにかを入れています。

地区南西部は演習場跡地から、小・中学校、特別支援学校(養護学校)、湘南工科大学、同附属高等学校が集まる文教地区、辻堂団地など計画的な開発がされた場所です。また、東京オリンピックに合わせたインフラ整備の一環として辻堂浄化センターが建設され、下水道についても非常に早い時期から整備が進められてきました。それ以外の地区の大部分は閑静な住宅地で、特に辻堂太平台や辻堂東海岸などは風致地区に指定され、緑豊かな住環境が保たれています。

JR東海道本線を南北に行き来できる幹線道路が2ヶ所しかないため、夏場の観光シーズンは渋滞が激しく、住民からは新たな縦断道路の整備が望まれています。



辻堂海浜公園と海浜公園通り

重点 ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

めざす方向性	(1) 地域自発型の「藤沢づくり」を育むまち	(2) 明日の藤沢を担う「藤沢の子どもたち」を育むまち	(3) 市民力・地域力による安全で安心して暮らせるまち	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など気候変動への対策	(7) 藤沢づくりを支える都市構造の再構築と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「藤沢ライフスタイル」と「高成長産業」の創出
生活	(A) 市民生活の安定(安定・落ち着き・安らぎ)	9 市民自ら、人にもやさしいまちを創ることに努めること	17 健康、医療、福祉、健康などの生活課題を「いい暮らし」に結びつけること	24 移住や再帰により市民同士のコミュニティが育ちあがっていること	35 まちと自然環境の調和がとれていること	46 生活の権利と環境保全の両方が実現していること	59 市民が楽しみや愛着をもてる景観があること	66 市民の財産である自然を守り、育てられていること	73 活気があり、開放的でまちであること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	2 市民が自慢できるまちであること	8 子どもを安心して育てられる環境があること	18 治安の良い環境があること	26 子育て世代が安心して暮らせるまちであること	39 市民が地域、行政が主体的に課題解決に取り組んでいること	48 豊かな緑に囲まれた生活が実現していること	56 市民が安心して暮らせるまちであること	63 市民生活に安心がもたらされていること
活動	(C) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	3 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	7 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	27 お互いの個性が尊重されていること	37 市民、地域、行政が主体的に課題解決に取り組んでいること	47 みんなが協力して、いっしょにまちがきれいであること	57 すべての世代が、いのちのいのちと活躍していること	64 市民が安心して暮らせるまちであること	71 市民が安心して暮らせるまちであること
	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	4 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	10 子どもが、住んでいるまちで遊びたい、学びたい、活動したいこと	19 治安の良い環境があること	28 子育て世代が安心して暮らせるまちであること	41 市民が地域、行政が主体的に課題解決に取り組んでいること	50 市民が安心して暮らせるまちであること	67 市民が安心して暮らせるまちであること	74 市民が安心して暮らせるまちであること
課題	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	5 地域で活動して、暮らしを豊かにしていること	12 地域活動で、暮らしを豊かにしていること	21 市民が協力しあっていること	31 市民が協力しあっていること	44 市民が協力しあっていること	54 市民が協力しあっていること	61 市民が協力しあっていること	68 市民が協力しあっていること
	(F) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	6 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	11 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・美しい)	22 市民が協力しあっていること	32 市民が協力しあっていること	42 市民が協力しあっていること	52 市民が協力しあっていること	62 市民が協力しあっていること	69 市民が協力しあっていること

村岡

まちづくりテーマ ふじさわ未来課題

テーマ

(仮称) 考えよう、いきいきとした 村岡のまちづくり

概況

村岡地区は、藤沢市の南東部に位置し、西側は藤沢駅周辺地域、東側は鎌倉市に隣接しています。
人口は23,142人、世帯数は9,963世帯です。65歳以上の人口に占める割合（高齢化率）は17.0%で、市の平均値18.2%より低い状況です。（資料：平成17年度国勢調査）

むらおかに人が住み始めたのは六千年ぐらい前といわれています。地区内には、平安の頃平良文が築いた村岡城（現在は城址）や中世に北条氏が建てた二伝寺・天獄院などが多くの史跡があります。明治に弥勒寺・小塚・宮前・高谷・渡内・川名・柄沢の七ヶ村が合併して現在の村岡の区域が出来あがりました。昭和30年代以降工場の進出や土地区画整理に基づく宅地化が進む一方、川名にはまだ自然が多く残されています。

地区のまちづくりは、柄沢特定土地区画整理事業が施工中で市街地整備を行った範囲を中心に道路基盤整備が進んでいますが、まだ地区全体での道路整備状況は遅れています。また昭和60年に廃止された湘南貨物駅跡地の有効利用が課題となっています。湘南貨物駅跡地の有効利用として新駅設置の取り組みが進められています。

平成20年には藤沢市と鎌倉市との広域連携により「村岡・深沢地区全体整備構想」案の策定を行い、神奈川県、鎌倉市と共同で新駅設置に向けた課題の整理等を進めています。（資料：村岡地区まちづくり計画）2010年4月藤沢市長に答申書が提出されました。



新林公園

重点ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

課題領域	めざす方向性	(1) 地域資源型の暮らしが実現できること	(2) 独自の歴史や文化が継承され、誇りが持てること	(3) 市民が地域力による発展を実感できること	(4) 向い向き、共に生きる地域社会の創出	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など次世代の地球環境への貢献	(7) 暮らしづくりを支える豊かな自然環境の維持・発展	(8) 公共資源の持続可能な活用	(9) 暮らしの質を向上させること
生活	(A) 市民生活の豊かさ(安心・持ち寄り・健康)	豊かな地域での暮らしが実現していること	市民が、人に誇りを感じられること	17 健康、医療、福祉、教育などの生活環境が整っていること	18 災害に備え、防災意識が醸成されていること	19 安全な暮らしが実現していること	20 暮らしが快適で、いつでもまちがきれいであること	21 自然環境が豊かであること	22 市民が安心して暮らせる環境があること	23 市民が安心して暮らせる環境があること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	市民が自分で暮らせること	市民が安心して暮らせる環境があること	24 安全な暮らしが実現していること	25 暮らしが快適で、いつでもまちがきれいであること	26 自然環境が豊かであること	27 暮らしが快適で、いつでもまちがきれいであること	28 暮らしが快適で、いつでもまちがきれいであること	29 暮らしが快適で、いつでもまちがきれいであること	30 暮らしが快適で、いつでもまちがきれいであること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	4 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	5 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	6 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	7 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	8 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	9 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	10 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	11 歴史や文化を伝える活動が盛んであること	12 歴史や文化を伝える活動が盛んであること
	(D) 健康・健康活動(健康・チャレンジ)	2 健康で活動し、暮らすことができること	3 健康で活動し、暮らすことができること	4 健康で活動し、暮らすことができること	5 健康で活動し、暮らすことができること	6 健康で活動し、暮らすことができること	7 健康で活動し、暮らすことができること	8 健康で活動し、暮らすことができること	9 健康で活動し、暮らすことができること	10 健康で活動し、暮らすことができること
基盤	(E) 文化基盤(交流・つながり・連携)	8 地域が子どもを育てる環境であること	9 地域が子どもを育てる環境であること	10 地域が子どもを育てる環境であること	11 地域が子どもを育てる環境であること	12 地域が子どもを育てる環境であること	13 地域が子どもを育てる環境であること	14 地域が子どもを育てる環境であること	15 地域が子どもを育てる環境であること	16 地域が子どもを育てる環境であること
	(F) 市民生活の基盤(学び・育む・人材育成・仕組みづくり)	7 学びが得意なまちづくりが実現していること	8 学びが得意なまちづくりが実現していること	9 学びが得意なまちづくりが実現していること	10 学びが得意なまちづくりが実現していること	11 学びが得意なまちづくりが実現していること	12 学びが得意なまちづくりが実現していること	13 学びが得意なまちづくりが実現していること	14 学びが得意なまちづくりが実現していること	15 学びが得意なまちづくりが実現していること

① 市民生活の豊かさ(安心・持ち寄り・健康) ② 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい) ③ 持続的活動(伝える・維持する) ④ 健康・健康活動(健康・チャレンジ) ⑤ 文化基盤(交流・つながり・連携) ⑥ 市民生活の基盤(学び・育む・人材育成・仕組みづくり)

藤沢

まちづくりテーマ ふじさわ未来課題

テーマ

歴史と文化が息づく、湘南藤沢の都心部拠点

概況

人口については、6月1日現在で42,962人、全市の10.6%を占めています。市内13地区では鶴沼地区について2番目に多い地区になります。65歳以上の人口は8,684人で、人口の占める割合（高齢化率）は20.2%で13地区の真ん中の7番目となっています。

藤沢地区の地勢としては、藤沢市の中東部に位置し、面積は4.7km²、藤沢都市部を含む比較的東西に長い地形になっています。この地区は、旧東海道を中心として、古くから道路や鉄道の整備が進んでおり、藤沢地区内にはJR藤沢駅と小田急線藤沢本町駅があることから、買い物や通勤・通学などへの利便性も高く、この両駅を拠点として、商店街やオフィスが多数集中しています。

また藤沢市役所を始めとして、NTTや郵便局などの公的機関の本局が集中しており、その他、小中高などの教育施設、遊行寺や白旗神社を始めとする神社仏閣、藤沢市民病院を代表とする医療施設も他地区に比べて多く、文化・教育・歴史・医療などが調和した地区となっています。



藤沢地区の様子



藤沢地区の様子

重点 ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

課題領域	めざす方向性	(1) 地域自律型の「藤沢づくり」を推進すること	(2) 前日の藤沢を抱きかかろうと「ふるさと」を育むこと	(3) 市民力・地域力による安心・安全なまちづくりを推進すること	(4) 南に生き、共に創る地域社会の創造	(5) 豊かな自然環境の次世代への継承・発展	(6) 地球温暖化防止など未来の地球環境への投資	(7) 「藤沢づくり」を支える都市機能の高度化と地域経済の活力再生	(8) 公共資産の維持管理と有効活用	(9) 「藤沢ライフスタイル」の創造
生活	(A) 市民生活の安定（安定・落ち着き・安らぎ）	1 身近な地域で暮らすやすさが実現していること	6 市民自ら、人にやさしい手をさしのべること	17 保健、医療、福祉、教育などの生活環境が安心・暮らしやすいこと	24 福祉や暮らしに必要とする市民自らのコミュニティ機能が充実していること	25 まちと自然環境の調和がとれていること	43 生活の便利さと環境保全の両方が実現していること	58 身近に楽しみや安らぎをもてる景観があること	69 市民の絆で支えられたまちであること	79 活気があり、開放的で温かいまちであること
	(B) 市民生活の豊かさ（役に立つ・便利・快適・楽しい）	2 市民が自慢できるまちであること	8 子どもを安心して育てられる環境があること	18 災害に耐えて、市民が安心できるまちであること	23 生活環境を守ることが地域で当たり前であること	26 誰もが快適に暮らすことができるまちであること	47 みんなが協力して、いつでもまちがきれいであること	67 誰もが安心して暮らせるまちであること	78 移動や利用に合わせたまちづくりが実現していること	74 いつもの暮らしが心地よいこと
活動	(C) 持続的活動（伝える・維持する）	3 市民自ら積極的に暮らすこと	9 市民自ら積極的に暮らすこと	19 地域の良い環境であること	20 子育て世代を支える環境が充実していること	27 お互いの個性が尊重されていること	57 市民、地域、行政の協力が、地域の活性化を実現していること	68 豊かな緑に囲まれた生活が実現していること	86 地域の特長を活かされたまちであること	77 豊かな自然環境を大切に、思いやりのあるまちであること
	(D) 創生・推進活動（発展・チャレンジ）	4 藤沢市で生活する多様な市民が活躍できること	10 子どもが、自ら選んだ地域に誇りをもち、地域で暮らすこと	20 安全・安心なまちづくり活動が盛んであり、ボランティアの精神が強いこと	28 地域のために一人ひとりの活動が大切にされていること	30 身近にある緑が適切に保全されていること	59 市民の健康と生活の質を高めること	69 市民が自らすすんで活動するまちであること	77 豊かな自然環境を大切に、思いやりのあるまちであること	77 豊かな自然環境を大切に、思いやりのあるまちであること
基盤	(E) 交流基盤（交流・つながり・連携）	5 地域で活動し、暮らすこと	11 地域活動で、暮らすこと	21 市民が協力し、安心して住みやすいまちであること	29 いろいろな世代、いろいろな人たちが交流できること	32 調和のとれた景観づくりが進められていること	48 先進的な環境づくりが実現していること	62 地域の活力を高め、地域が元気になること	70 緑や自然によって、身近な公共の場が維持管理されていること	78 市民の豊かさと、市民生活の質が向上していること
	(F) 市民生活の基盤（学ぶ・育む・人財育成、社会づくり）	6 子どもが安心して暮らすこと	12 地域活動で、暮らすこと	22 様々な世代が、地域で住みやすいまちであること	31 社会的弱者の方が地域に溶け込めること	33 市民が協力し、安心・安全なまちづくりが実現していること	49 市民が協力し、安心・安全なまちづくりが実現していること	63 誰もが安心して暮らせるまちであること	71 誰もが安心して暮らせるまちであること	78 市民の豊かさと、市民生活の質が向上していること

① 市民生活の安定・豊かさの向上
② 市民生活の豊かさの向上
③ 市民生活の安定・豊かさの向上
④ 市民生活の豊かさの向上

明治

まちづくりテーマ ふじさわ未来課題

テーマ

明るく楽しい未来を創るまち

概況

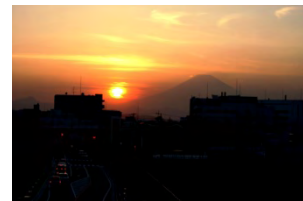
明治地区の総人口は25,669人(2010年月現在)で、全市の6.3%を占めており、13地区別では村岡地区に次いで10番目となる。

地区内の世代別人口構成では65歳以上の高齢者が全人口に占める割合は17.9%となっており全市の20%と比較して現時点では高齢化の進行は遅く、バランスのとれた年齢構成となっている。しかし、10年後の予測では総人口が26,322人、このうち高齢者は6,000人でその割合は22.8%と増大し、高齢化が加速することが見込まれる。

明治地区は藤沢西部の相模原台地、座間・高座丘陵の南端に位置する概ね平坦な地勢となっており、西は茅ヶ崎市と接し、東は引地川が流れ、大庭南部に広がる引地川緑地ゾーン、城南の斜面緑地が一体となって、地区のランドマークとなる緑が形成されている。総面積は2,92km²で13地区では最も狭い。



城稲荷の田園



辻堂駅北口デッキからの富士山

重点 ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

課題領域	めざす方向性	(1) 地域自衛型の「暮沢づくり」を推進すること	(2) 明日の暮らしを担う「暮沢づくり」を推進すること	(3) 市民力・地域力による自治体への貢献を推進すること	(4) 市民力・地域力による自治体への貢献を推進すること	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展を推進すること	(6) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展を推進すること	(7) 暮らしの質を向上させること	(8) 暮らしの質を向上させること	(9) 暮らしの質を向上させること	(10) 暮らしの質を向上させること
生活	(A) 市民生活の安定(安全・暮らしやすさ)	14 身近な地域での安心・安全な暮らしを実現すること	15 身近な地域での安心・安全な暮らしを実現すること	16 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	17 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	18 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	19 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	20 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	21 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	22 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること	23 高齢者、障害者、子育て世代などへの支援を推進すること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	24 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	25 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	26 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	27 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	28 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	29 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	30 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	31 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	32 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	33 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	34 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	35 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	36 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	37 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	38 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	39 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	40 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	41 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	42 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	43 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること
	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	44 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	45 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	46 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	47 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	48 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	49 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	50 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	51 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	52 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	53 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	54 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	55 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	56 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	57 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	58 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	59 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	60 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	61 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	62 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	63 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること
	(F) 市民生活の基盤(学び・育む・人材育成・仕組みづくり)	64 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	65 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	66 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	67 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	68 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	69 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	70 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	71 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	72 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること	73 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)を実現すること

①国策等の課題解決で関係する
重点・ふじさわ未来課題

②自治体や市民の課題
向上を

③より効果的に課題の
維持を

④課題と関係ある未来
課題

善行

まちづくりテーマ ふじさわ未来課題

テーマ

みんなが元気で、誰にもやさしい 坂のまち

概況

善い事を行うと書いて「ぜんぎょう」と読みますが、わたしたちのまち「ぜんぎょう」は、藤沢市のほぼ中央部、神奈川県中西部から広がる相模野台地の南端に位置し、境川と引地川の両河川に挟まれた、面積6,09km²の区域です。元々の地名を「善行寺村」といって、現在の善行公園辺りにあったとされる「善行寺」に由来するものと言われていますが、定かではありません。

善行地区は、台地と谷間の入り組んだ複雑な地形をしており、豊かな自然と緑が織りなす景観に囲まれた、「坂道」に象徴されるまちで、4月1日現在、藤沢市の人口の10.3%に当たる41,780人の人たちが暮らしています。65歳以上の方の占める割合（高齢化率）は20.8%で、市内では4番目に高い地区になります。

善行は、太古から生活の営みがあった所で、ナウマン象の化石や先土器、縄文・弥生各時代の遺物や住居跡が、地区内のあちこちから数多く出土しています。

江戸時代には、幕府直轄であった藤沢宿坂戸町の枝郷でしたが、宿の最北端にあったため、藤沢宿のようには甚に知られていない農村集落でした。

昭和初期、関東屈指の名門コースといわれた藤沢カントリー倶楽部が開場、皇族を始め多くの著名人が訪れました。このゴルフ場は、後に、太平洋戦争という大きな時代の波にもまれ、数奇な運命を辿ることになりますが、現在も当時の面影を残す「グリーンハウス」と呼ばれたクラブハウスが残っています。素朴で静かな佇まいを見せていた善行ですが、まちづくりの面では、昭和35年の小田急線善行駅の開業をきっかけに、大きな変化を遂げました。

ちょうどそのころ、市では善行地区を都市計画区域に指定、善行駅を中心に大規模な開発事業に着手しました。この結果、駅の東側は、県立体育センターや藤沢商業高等学校（現藤沢翔陵高等学校）、聖園女学院などの文教地区に、西南部は荏原製作所など、20社以上の企業が進出する工業地区となり、また、亀井野団地、善行団地の造成を始め、相次いだ住宅開発と周辺のインフラ整備に伴って、現在の「ぜんぎょう」の街が形づくられていきました。



坂のまち「ぜんぎょう」

重点

ふじさわ未来課題

重点未来課題として、地区で選択

課題領域	めざす方向性	(1) 地域自律型の「藤沢づくり」を推進する	(2) 自治体の課題を相互に解決し、まちづくりを推進する	(3) 市民から、人へのやさしいまちづくりを推進する	(4) 共に生き、共に創る地域社会の創造	(5) 豊かな地域資源の次世代への継承・発展	(6) 地域課題の解決と新たなまちづくりの推進	(7) 「藤沢づくり」を支える市民の意識の醸成と地域資源の活用	(8) 公共施設の維持管理と活用	(9) 「藤沢ライフスタイル」の創出
生活	(A) 市民生活の安心(安全・まち歩き・安らぎ)	身近な地域で暮らすことが容易であること		17 高齢、障害、健康などの生活課題が懸念・解消されていること	24 経済や社会が停滞しないまちづくりが実現していること	25 まちと自然環境の調和がとれていること	26 生活の質の向上と環境保全の両方が実現していること	27 市民が安心して暮らすことができること	28 市民が安心して暮らすことができること	29 市民が安心して暮らすことができること
	(B) 市民生活の豊かさ(役に立つ・便利・快適・楽しい)	市民が自慢できるまちであること	18 災害に耐えて、市民が安心して暮らすことができること	19 治安の良い環境であること	20 子育てがしやすいまちであること	21 市民が安心して暮らすことができること	22 市民が安心して暮らすことができること	23 市民が安心して暮らすことができること	24 市民が安心して暮らすことができること	25 市民が安心して暮らすことができること
活動	(C) 持続的活動(伝える・維持する)	市民が自ら活動に取り組むことができること		26 市民が安心して暮らすことができること	27 市民が安心して暮らすことができること	28 市民が安心して暮らすことができること	29 市民が安心して暮らすことができること	30 市民が安心して暮らすことができること	31 市民が安心して暮らすことができること	32 市民が安心して暮らすことができること
	(D) 創造・推進活動(発展・チャレンジ)	市民が自ら活動に取り組むことができること		26 市民が安心して暮らすことができること	27 市民が安心して暮らすことができること	28 市民が安心して暮らすことができること	29 市民が安心して暮らすことができること	30 市民が安心して暮らすことができること	31 市民が安心して暮らすことができること	32 市民が安心して暮らすことができること
基盤	(E) 交流基盤(交流・つながり・連携)	市民が自ら活動に取り組むことができること		26 市民が安心して暮らすことができること	27 市民が安心して暮らすことができること	28 市民が安心して暮らすことができること	29 市民が安心して暮らすことができること	30 市民が安心して暮らすことができること	31 市民が安心して暮らすことができること	32 市民が安心して暮らすことができること
	(F) 市民生活の基盤(学ぶ・育む・人材育成・住環境づくり)	市民が自ら活動に取り組むことができること		26 市民が安心して暮らすことができること	27 市民が安心して暮らすことができること	28 市民が安心して暮らすことができること	29 市民が安心して暮らすことができること	30 市民が安心して暮らすことができること	31 市民が安心して暮らすことができること	32 市民が安心して暮らすことができること

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿